

初の海外資材調達部門を台湾に設立

日立製作所と三菱電機の半導体事業を統合して2003年4月にスタートした(株)ルネサステクノロジは、半導体専門メーカーとしては、インテル、サムスンに次いで世界第3位である。当社の台湾現法である台湾瑞薩(股)は、両社の台湾拠点を引き継ぐ形で設立され、台湾で半導体の設計や販売を行う他、台湾メーカーからの資材調達活動も行っている。今年7月からは、台湾における資材調達の効率化を図るため、ルネサステクノロジとして初の海外資材調達部門を台湾に設立した。今回は台湾瑞薩の平澤大 董事長に、当社の台湾における事業活動についてお話をうかがった。

台湾瑞薩(股)
平澤大 董事長



日立、三菱の台湾半導体事業を統合し、拠点を設立

ルネサステクノロジについてお聞かせください
平澤：ルネサステクノロジは2003年4月、日立製作所と三菱電機の半導体部門を事業統合して設立しました。半導体専門メーカーとしては、インテル、サムスンに次いで世界第3位の規模で、ダイオード、トランジスタからマイコンまで、幅広い半導体製品を生産しています。特に「モバイル」、「自動車」、「PC/AV」の3分野のソリューションに力を入れており、カーナビ向けMCUや携帯電話アプリケーションプロセッサなど多くの世界トップシェア製品を持ちます。

台湾拠点である台湾瑞薩は昨年7月に設立しました
平澤：ルネサステクノロジの設立に伴い、日立製作所と三菱電機の台湾拠点における半導体事業を統合し、台湾瑞薩を設立しました。台湾における主な業務は、半導体の販売及び資材調達業務で、その他、兄弟会社であるルネサスソリューションを通じ、設

計サービスを提供しています。従業員数は台湾瑞薩が約70名、ルネサスソリューションが約20名です。

台湾拠点の「デザイン・イン」件数はアジア最多

台湾では主にどのような製品を販売していますか？
平澤：台湾ではPC及びその周辺産業が発展しているので、マイコン、LCDドライバIC、フラッシュメモリなどが台湾における主要製品です。特に、台湾にはPCや携帯電話のOEM、ODMメーカーや半導体のデザインハウスなど、自社で設計を行う企業が多いので、顧客に密着した営業が重要です。当社はルネサスソリューションを通じ、顧客に対する設計サービスを充実させています。

台湾企業は生産業務の多くを中国に移管しています
平澤：現在、多くの台湾IT企業は中国に工場を持っており、生産業務を中国に移管しています。しかし設計業務に関しては現在も台湾で行っていますので、

日本企業から見た台湾

お客様の製品に当社の半導体を使用していただく「デザイン・イン」の活動は台湾で行う必要があります。ルネサステクノロジは台湾の他、シンガポールや上海等にアジア拠点がありますが、台湾拠点の「デザイン・イン」件数は、日本を除きアジア最多です。

初の海外資材調達部門を台湾に設立

今年7月に、資材調達部門を設立しました

平澤：ルネサステクノロジでは、これまで日立製作所と三菱電機の調達部門を経由して、台湾での調達を行ってきました。しかし台湾での資材調達の効率化及び現地アウトソーシング会社との関係強化を図るため、台湾に資材調達部門を設立しました。これはルネサステクノロジとして初の海外資材調達部門になります。当初日本人スタッフ1名、台湾人スタッフ4名で業務を始めますが、今後担当スタッフを6名程度に増やしていく予定です。

台湾では主にどのような資材を調達していますか。

平澤：台湾での調達品目として、ウェハファウンドリ、アセンブリ加工委託、テストング委託、半導体材料などがあります。当面はファウンドリがメインですが、今後はアセンブリも増加する見込です。今年度、台湾における調達金額は約1.5億米ドルとなる予定ですが、ルネサステクノロジとしては、グループ外へのアウトソーシングのうち、約25%が台湾メーカーへの委託となる見込です。

分業体制が台湾半導体産業の強み

力晶半導体とは長期的な協力関係を維持しています

平澤：力晶半導体(PSC)は三菱電機と技術提携を行っ

ていた関係で、ルネサステクノロジも力晶半導体とは良好な関係を維持しています。半導体製造には様々なプロセスがありますが、各社の設計やプロセスのルールは必ずしも同じではありません。そこで台湾企業にアウトソーシングする場合、当社の設計ルールと台湾ファウンドリのプロセスルールをすり合わせる必要がありますが、この意味で、長期的な関係を維持している力晶半導体とは技術移管がスムーズに行きます。

台湾で資材調達を行うメリットは？

平澤：台湾半導体産業は、設計から製造、パッケージング、テストングといった分業体制が発展していますが、この分業体制こそ台湾半導体産業の強みといえます。例えば台湾のパッケージングやテストングなどの後工程メーカーは、世界各地から様々なパッケージングやテストングの業務を受託しているため、非常に幅広い業務に対応が可能です。また後工程に特化した設備投資が可能なので、最新の設備をそろえることができ、これが台湾の後工程メーカーの高い競争力に繋がっています。

台湾で資材調達活動の今後の展望は？

平澤：台湾では成熟製品のファウンドリ、アセンブリ、テストングのみならず、最先端の技術の提供も可能となっており、AND型フラッシュメモリなどの調達も開始しました。今後も台湾のアウトソーシング会社との生産・技術両面における関係強化を通じ、台湾での資材調達業務を拡大していきたいと考えています。